#### 研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 4 年 6 月 2 2 日現在

機関番号: 17702

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2018~2021

課題番号: 18K10818

研究課題名(和文)中学校における武道が日本の伝統文化の継承に果たす教育的機能

研究課題名(英文)The Educational Function of Martial Arts in Junior High Schools for the Inheritance of Traditional Japanese Culture

#### 研究代表者

北村 尚浩 (Kitamura, Takahiro)

鹿屋体育大学・スポーツ人文・応用社会科学系・教授

研究者番号:70274868

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3.300.000円

研究成果の概要(和文):指導する側の教員は,武道の授業を通して「他者を尊重する態度や礼儀,礼法中心の指導」や「立ち居振る舞いや所作」「感謝の気持ち」の指導に留意している.それに対して学習者である生徒は,武道の中で重要視される礼儀作法や精神修養のような日本の伝統的な価値観や行動様式,生活様式を伝統文化として学習していることが明らかになった.生徒は武道それ自体や姿勢,立ち居振る舞いを日本の伝統文化と

して認識されている。 また,海外の武道実施者は,武道をスポーツの一種目として捉えており,学習成果としても力や運動技能の習得などが多く挙げられたのと比較して,他者への敬意や日本の伝統文化の理解などは少ないことが明らかになっ

研究成果の学術的意義や社会的意義 2012年4月に,日本の伝統文化の継承を目的として中学校の体育で武道が必修化された。体育の授業の中ではスポーツの一つとして扱われるが,その教育には日本の伝統文化の継承という,他の種目にはみられない特異性を有している。武道は歴代では、世代の経典・発展の表現の教材として教員の間でも一定の評価が得られており,そのた

のツールとしての期待感が強い(北村,2013). しかしながら,武道が必修化されて10年が経過する中で、日本の伝統文化として何を教えるべきかは,必ずしも明確になっていない。本研究は,教育政策の成果を評価するものであり、政策評価の観点からもその意義を有するものである。

研究成果の概要(英文): The teachers are concerned with teaching "respect for others, courtesy, and etiquette", "behavior and manners", and "gratitude" through the martial arts classes. In contrast, the students are learning traditional Japanese values, behaviors, and lifestyles, such as etiquette and spiritual cultivation, which are important in budo, as part of traditional culture. The students perceive budo itself, posture, and behavior as part of traditional Japanese culture. The study also revealed that martial arts practitioners in other countries regarded martial arts as a sport, and that the learning outcomes were less about respect for others and understanding of traditional Japanese culture, compared to the learning outcomes such as strength and motor škills.

研究分野: 体育・スポーツ社会学

キーワード: 武道 伝統文化 中学校 体育

# 1.研究開始当初の背景

武道の学習を通じて我が国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにする(文部科学省,2008)ため,2012年度より中学校の体育における武道が必修化された.

申請者らはその教育的効果を検証し,日本の伝統文化的側面の教育効果は,教員では強く認識されている(Kitamuraetal,2016)一方,生徒では弱い(Kitamuraetal,2017:北村ら,2017)ことを明らかにし,両者の間にはギャップがあることを報告している.

また,欧州の10代の柔道実施者と日本の中学生柔道実施者とを比較したところ,欧州の実施者は日本の実施者に比べて運動そのものに対する関心が高く,日本の伝統文化的側面よりもスポーツの一種目として志向していることが示唆された.

このような背景のもと,中学校の体育における武道教育について,その教育内容と教育効果との関連を明らかにすることで,伝統文化の習得のための武道教育の在り方について有意義な示唆が得られると考え,本研究に着手した.

#### 2.研究の目的

本研究の目的は,中学校で必修化された武道教育が,日本の伝統文化の継承に果たす機能を明らかにしようとするものである.

# 3.研究の方法

#### (1)平成30年度

全国の中学校を対象として,体育の授業における武道の実施状況と教育内容,その効果について質問紙調査により明らかにすることが目的であった.とりわけ,学習指導要領により示された指導内容をどの程度指導し,生徒たちがどの程度習得できているのか,そして,武道の授業を通して「我が国固有の伝統と文化への理解を深める」ことを留意した指導内容,その他の種目と比較して生徒への学習効果の違いを明らかにすることを試みた.そのため,全国の分校を除く公立中学校から1,002校を無作為に抽出して2018年11月から2019年2月にかけて郵送法による質問紙調査を行った.

#### (2)令和元年度

協力の得られた中学校の生徒を対象として、体育の授業における武道の学習成果について質問紙調査により明らかにすることが目的であった。とりわけ、学習指導要領により示された指導内容を生徒たちがどの程度習得できているのか、そして、「武道の授業を通して学習した日本の伝統や文化」にはどのようなことがあったのかを明らかにすることを試みた。そのため、2018年度に教員を対象に実施した質問紙調査の際に生徒への調査の内諾が得られた 108 の中学校に対して改めて協力を依頼し、30 校の生徒 1,909 人に対して 2019 年 11 月から 2020 年 3 月にかけて質問紙調査を行った。

### (3)令和2年度,令和3年度

海外の武道参加者の参加動機と彼らが抱く学習効果を調査し,得られたデータを日本の武道参加者と比較することで,武道のグローバル化・スポーツ化の視点から,その効果を検証することが目的であった.しかしながら,COVID-19 の世界的流行により海外での調査実施が遅れたため,計画全体に遅れが生じた.海外の武道参加者の参加動機と武道実施による学習効果を明らかにするため,オランダ・ベルギーの柔道家を対象として2020年12月8日から2020年12月

28 日にかけて Microsoft Forms を用いたインターネット調査を行った.

そして,2018 年度から 2020 年度にかけて実施した中学校の教員,中学生,海外の武道参加者をそれぞれ対象とした一連のアンケート調査から得られたデータを,日本と海外のデータを比較して武道のグローバル化・スポーツ化の視点から,その教育効果を検証した.

### 4. 研究成果

# (1) 平成30年度

武道の実施状況として,実施している種目は柔道(62%),剣道(34%),その他(4%)の順で,従来報告されている割合とほぼ同様であった.指導内容では,「技の名称や行い方」「基本となる技」や「健康・安全に配慮する」「健康・安全を確保する」など,安全に十分配慮しつつ基本的な技術指導に重点が置かれている様子が窺えた.一方で習得状況では,「習得できている」との回答が半数を超えたのは「健康・安全に配慮する」「健康・安全を確保する」の2項目のみであった.そして,「我が国固有の伝統と文化への理解を深める」ことを留意した指導内容についての自由回答を分析した結果からは,伝統や文化を教員がどのように捉えているのかが浮き

彫りになった(図1,図2).図1で は、「我が国固有の伝統と文化への理 解を深める」ことを留意した指導内容 の記述の中で用いられた「相手」「指 導」「礼法」「尊重」などの語で構成さ れるサブグループが最も大きく,ま た,多次元尺度構成法による抽出語の 2次元プロット(図2)からは,授業 において,礼法指導や他者を尊重する 態度を中心に教える ,というクラスタ ーを ,「礼儀作法や立ち居振る舞い」 「日本の伝統や歴史の学習」「行動の 成り立ち,文化的背景」「伝統的な考 えに触れる」「授業への取組」「感謝の 気持ち,意識」「態度」などのクラスタ ーが取り巻いている様子が窺える.

これらの結果から,教員は「他者を 尊重する態度や礼儀,礼法中心の指導」や「立ち居振る舞いや所作」「感謝の 気持ち」に留意した指導を行っている ことが明らかになり,これらに教員が 考える日本の伝統文化が表出してい ることが示唆された.

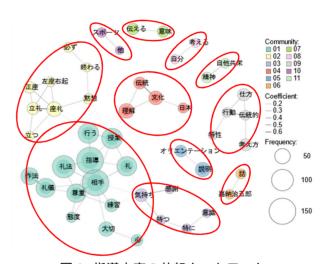


図1 指導内容の共起ネットワーク

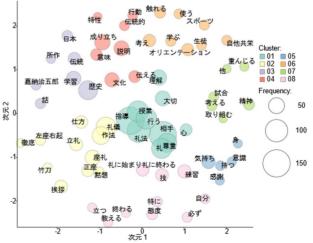


図2 多次元尺度構成法による配置

#### (2)令和元年度

体育の授業における武道の学習成果について,質問紙調査により明らかにすることが目的であった.とりわけ,学習指導要領により示された指導内容を生徒たちがどの程度習得できているのか,そして,「武道の授業を通して学習した日本の伝統や文化」にはどのようなことがあった

のかを明らかにすることを試みた.協力の得られた中学校の体育主任教員に調査票の配布回収を依頼し733名から回答を得た.体育の授業で習っている武道種目は.柔道が49.9%,剣道46.9%,その他の種目3.1%であった.85.7%の生徒が体育の授業を「好き」「どちらかというと好き」と好意的に捉えているのに対して,武道の授業を「好き」「どちらかというと好き」と回答した者は58.2%であった.そして,「武道の授業を通して学習した日本の伝統や文化」についての自由回答を分析した結果(図3)からは,相手を尊重する態度や礼法,座礼,立礼などからの礼儀作法,精力善用,自他共栄などの概念から精神修養,畳や着物(道衣)といった物的伝統などが伝統や文化の学習成果として明らかになった.

生徒は、武道の授業を通して日本の 伝統的な価値観、行動様式、生活様式を 日本の伝統文化として学んでいる.武 道そのものが日本の伝統文化の一つと して広く認知されており、その姿勢や 立ち居振る舞いは、生徒にとっての を活る舞いは、生徒にとっても える・一方で、生徒が学んだことが必ら は言い難い・知識としては定着していると は言い難い・知識としてのアイデン ティにどう影響するか、今後の検 証が待たれる・

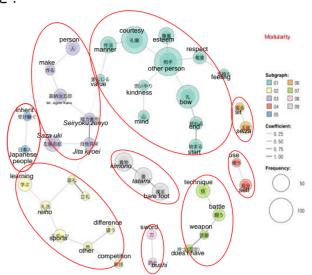


図3 学習内容の共起ネットワーク

# (3)令和2年度,令和3年度

海外の武道参加者の参加動機と彼らが抱く学習効果を調査し、得られたデータを日本の武道参加者と比較することで、武道のグローバル化・スポーツ化の視点から、その効果を検証することが目的であった。オランダ・ベルギーの柔道家を対象に Microsoft Forms を用いたインターネット調査を行ったところ 169 名(オランダ 130 名、ベルギー39 名)から回答を得た、サンプルの柔道歴は平均 31.0 年で、84%が有段者(黒帯)であった。柔道を週 1 回以上実施している者の平均実施頻度は 3.2 回で、出場経験のある大会は国際大会と回答した者が半数近く(47.9%)に上った。このような海外柔道家の柔道参加動機、柔道による学習効果を検討した。結果として、柔道への参加動機としては「一つのスポーツである」「運動として」ということが多く挙げられ

る一方、「精神修養として」「海外の文化を理解する」という文化的側面の影響は弱いことが明らかになった.また、柔道による学習効果としても体力や運動技能の習得などが多く挙げられたのと比較して、他者への敬意や日本の伝統文化の理解などは少なかった(表1,表2).これらの結果は、昨年度まで明らかにしてきた中学校教員や中学生が感じる学習成果とは異なる.日本人と海外の柔道家とでは成果に対する認識が異なることを示唆するものであり、詳細な分析が必要である.

表1 柔道の学習効果(上位5項	目)	
項目	n	mean $\pm$ S.D.
自分に合った運動の技能を身につけることができ た	167	$3.89 \pm 0.34$
運動を豊かに実践するための基礎的な知識や技能を 身につけることができた	166	$3.87 \pm 0.35$
体力を高めることができた	167	$3.87 \pm 0.37$
ルールや仲間を称賛するなどマナーを守ろうとする 態度が身についた	167	$3.87 \pm 0.36$
運動の楽しさや喜びを味わうことができるようになった	167	$3.84\pm0.47$

表 2 柔道の学習効果(下位 5 項目	)	
項目	n	$mean \pm S.D.$
勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる ようになった	166	3.48±0.85
日本の伝統文化に触れることができた	166	$3.40 \pm 0.85$
日本の伝統文化を理解することができた	167	$3.34\pm0.77$
武道の伝統的な考え <b>方</b> を理解することができた	167	$3.34 \pm 0.79$
<b>自</b> 分の意思を相 <b>手</b> に伝える能力が <b>身</b> についた	168	$3.09\pm0.89$

# (4)期間全体を通してのまとめ

全体を通して,教員は武道の授業を通して「他者を尊重する態度や礼儀,礼法中心の指導」や「立ち居振る舞いや所作」「感謝の気持ち」の指導に留意している.それに対して生徒は,武道の中で重要視される礼儀作法や精神修養のような日本の伝統的な価値観や行動様式,生活様式を伝統文化として学習していることが明らかになった.生徒は武道それ自体を日本の伝統文化の一つとして捉えており,その姿勢や立ち居振る舞いは日本の伝統文化として認識されている.しかしながら,学習した内容が現代を生きる子どもたちに定着しているとは言い難く,日本人としてのアイデンティティ形成への影響について今後の検証が必要である.

#### 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕	計4件	(うち招待講演	0件/うち国際学会	2件`
しナム元収!	י ווידום	しつい山い冊/宍	り 1 / フロ田原ナム	411

4		22 <del>= 2</del> 2 /7	
		発表者名	
	•	$\mathcal{L}$	

北村尚浩,中村勇,前阪茂樹

2 . 発表標題

海外柔道家の柔道参加動機と学習効果:オランダ・ベルギーの柔道家を対象として

3 . 学会等名

日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会

4.発表年

2021年

#### 1.発表者名

Takahiro Kitamura, Shigeki Maesaka, Isamu Nakamura

# 2 . 発表標題

What do students learn of Japanese culture through budo in physical education class

# 3 . 学会等名

European Association for Sociology of Sports 2021 Congress (国際学会)

4.発表年

2021年

# 1.発表者名

北村尚浩,中村勇

#### 2 . 発表標題

武道の授業で日本の伝統文化をどう教えるのか: 教員の自由記述データの計量的分析

3 . 学会等名

日本体育学会第70回大会

4.発表年

2019年

# 1.発表者名

Takahiro Kitamura

# 2 . 発表標題

The impact of budo education on Japanese tradition and its difference to other sports in junior high school

#### 3.学会等名

16th European Association for the Sociology of Sport Conference (国際学会)

4.発表年

2019年

〔図書〕	計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6.研究組織

	. 妍光組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	前阪 茂樹	鹿屋体育大学・スポーツ・武道実践科学系・教授	
研究分担者	(Maesaka Shigeki)		
	(10209364)	(17702)	
	中村 勇	鹿屋体育大学・スポーツ人文・応用社会科学系・講師	
研究分担者	(Nakamura Isamu)		
	(70315448)	(17702)	

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------